

秋田大学横手分校

活動報告



横手市

平成26年度

目次

分校長あいさつ

秋田大学横手分校長 根岸 均	1
----------------------	---

秋田大学横手分校活動方針	2
--------------------	---

平成26年度活動実績

生涯学習	3
------------	---

産学連携	3
------------	---

小中高大連携	4
--------------	---

地域との交流	6
--------------	---

COC 事業との連携	7
------------------	---

分校長への講師依頼	8
-----------------	---

アンケート実施内容	10
-----------------	----

平成26年度横手分校活動状況一覧	14
------------------------	----

秋田大学横手分校に関する掲載記事等一覧	16
---------------------------	----

分校長あいさつ

秋田大学横手分校長

根 岸 均

以前から県内のあちこちで耳にしてきた話で、冗談っぽく受け止めてきましたが、最近は本音じゃないかを感じるようになった言い方が次です。

「いやー、秋田の子供たちの学力が高いっていうが、その結果、皆、県外に行くことになって、結局、人が減るのよ。困ったことだ。」

おそらく県の行く末を案じられた「善意」の表現だとは思っていますが、一人や二人ではありません。結構一定の「支持」層がありそうです。

ここで論争するつもりはありませんが、二重、三重の勘違いが背景にあるようです。

一つだけ確認をしておきます（多少嫌みな言い方になります）。

「本県の子供の学力が下がれば、人口は増加するのでしょうか。」

昭和30～40年代、本県の児童生徒の学力はそれこそ全国最低レベルでした。そのとき「学力の高い」子供は県外に行かなかったのでしょうか。

将来、「消滅可能性都市」が25市町村中24を占める本県の苦しさは分かりますが、だからといって、子供たちの可能性にまで「八つ当たり」をしてはなりません。

安西祐一郎氏（日本学術振興会理事長）が言われるように、学生には、知識や技能を活用して世界のどこにいても臨機応変の立ち居振る舞いができる思考力・判断力・表現力、そしてとくに、独立した一人の人間として、主体性をもって世界のトップレベルの多様な人々と協働していける能力を、大学で身に付けてほしいものです。

そのようなリーダーの育成・誕生こそが、本県の窮状を打破するショートカットになる道だと確信しています。

横手分校の周囲では、余るほどの「窮状」を見ることができます。

私の住む町内では、すでに3年前から小学生が「0人」となっていました。

しかし、県内をよく観察しましょう。スマホ情報じゃだめです。

増田町の内蔵、山内のいぶりがっこ（秋田大学製品名「いぶりばでい」）、小坂町のレールパーク、大館市のニプロ・・・今、閉塞感漂う本県では見通しの明るい事例です。どんな「仕掛け人」がいたのでしょうか。

「地域に学ぶ」・・・言葉で思考停止してはいけません。体験活動だけではダメです。

背景には何があって、誰が「仕掛け人」でしょう。今、次の手としてどんなことをやろうとしているでしょう。その調査だけでも勉強になりますが、その際、課題意識と感度のよいセンサーが不可欠です。

横手分校として「L e t ' s」の精神で最大限応援します。

秋田大学横手分校活動方針

秋田大学横手分校概要

秋田大学は、横手市との包括協定（平成21年2月7日締結）に基づき、まちづくり推進や地域産業の活性化、教育、文化・芸術の振興など本学の有する資源開放の拠点として、横手市役所本庁南庁舎（現在の条里南庁舎）へ「秋田大学横手分校」を開設した。現在は横手駅前新設された「横手市交流センターY²（わいわい）ぷらざ」内に拠点を移し、連携の一層の「見える化」を図っている。

横手分校では、市民や企業のニーズを受けるための相談窓口を開設すると共に、大学主催の講演会や小中高校生を対象とした教育講座を展開している。また、学生が地域に入り住民と交流する事業やイベントへの協力も行っており、地域の活性化につながると共に学生にとっても社会人基礎力を身につける場となっている。

横手分校が開設されたことを契機として、市民の皆さまには本学が有する様々なシーズを最大限に活用していただき、互いに連携を深めながら地域の振興に貢献していきたいと考えている。



秋田大学横手分校からの発信



平成26年度活動実績

生涯学習

平成26年度 高齢者の健康増進プロジェクト 秋田大学開放講座

(主催：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 協力：秋田大学横手分校)

実施日：平成26年7月20日(日)、8月10日(日)、8月23日(土)

会場：横手市交流センターY²ぷらざ

研究代表者：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 教授 石川 隆志

運営・管理：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 助教 久米 裕

共同研究者：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻作業療法学講座 助教 津軽谷 恵

協力：大学生および大学院生4名

受講者数：1回目 9名、2回目 6名、解説日 7名

健康増進に関する教育・研究の成果を提供し、自らの「健康」を支える個人技術の開発やエンパワーメントに繋げることを目的に開催した。

講座では講話の他、実際に検査を行い、希望する受講者には後日、検査結果の解説を行うことで生活を見直す機会とした。



産学連携

間引きスイカ活用についての勉強会

(主催：横手市 秋田大学横手分校)

実施日：平成26年8月5日(火)

会場：横手市交流センターY²ぷらざ

講師：秋田大学教育文化学部地域文化学科地域社会講座 教授 池本 敦

秋田大学産学連携推進機構 産学連携・共同研究部門 准教授 昌子 智由

受講者数：15名

良質なスイカを作るために間引かれる小さなスイカの有効活用についての勉強会を開催した。

前半の池本教授の講演では、そのようなスイカの抽出液には高血圧を予防する成分が含まれるとして様々な活用方について提案があった。

後半には、参加した横手市内事業者や高校生による意見交換が行われ、昌子准教授のアドバイスを受けながら地域資源の可能性について理解を深めた。



小中高大連携

1. 中学生モデルロケット秋田県大会2014

(主催：中学生モデルロケット秋田県大会実行委員会 後援：秋田大学、秋田県教育委員会、大館市教育委員会、北秋田市教育委員会、能代市教育委員会、秋田市教育委員会、大仙市教育委員会、横手市教育委員会、湯沢市教育委員会、由利本荘市教育委員会、一般社団法人日本機械学会東北支部、秋田大学横手分校)

能代宇宙イベント内の中学生向けコンテンツ「中学生モデルロケット秋田県大会」に向けた講習会を開催し、横手分校は横手会場を調整した。会場となった横手高校において大会説明やモデルロケットの基本的な製作方法の指導が行われ、製作後は打ち上げも行った。

大会は能代宇宙広場で開催され、講習を受講した横手北中学校から4チームが参加した。

【モデルロケット製作打上げ講習会】

実施日：平成26年7月19日(土)

会場：横手高等学校

講師：秋田大学大学院工学資源学研究科
機械工学専攻 教授 土岐 仁

受講者数：中学生10名、教員3名、家族連れ1組

【中学生モデルロケット秋田県大会2014】

実施日：平成26年8月17日(日)

会場：能代宇宙広場

参加者：横手北中学校(4チーム計11名)



2. 横手市教育推進委員会 研究主任部会 研修会

(主催：横手市教育推進委員会研究主任部会 共催：秋田大学横手分校)

実施日：平成26年8月19日(火)

会場：横手プラザホテル

講師：第一部 秋田大学横手分校長 根岸 均

第二部 秋田大学教育文化学部学校教育課程英語・理数教育講座
准教授 佐藤 学

受講者数：教員、教育関係者 28名

「児童生徒にとって楽しい学習の創造～子どもから歓声があき起こる授業～」をテーマに、第一部では根岸横手分校長が秋田大学横手分校についての解説を、第二部では佐藤准教授が小学校5年生を想定した数学の模擬授業を行った。



3. 平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」

(主催：秋田大学横手分校 後援：秋田県教育委員会、横手市教育委員会)

将来教職を目指す大学生・高校生が、中学生への学習指導補助等のプログラムを通して自己の適性を知り、学びのモチベーションを高めるとともに、本県における優れた教員養成・育成サイクルの一助となることを目的としている。

4度目の実施となった今回は、基本となる学習指導補助はもちろん、昨年度初めて実施した不登校や引きこもり経験者との懇談会を継続して企画した。また、実習校である横手南中学校からの提案で、職員研修に実習生が同席する場面も設定した。

実習最終日には県内外の教育関係者の視察を受け入れ、実習生にとっては活動の集大成となる1人40分の実習授業や、保護者・企業経営者との懇談会を実施した。

【オリエンテーション】

実施日：平成26年11月29日(土)

会場：横手市交流センターY²ぷらざ

【実習授業の事前練習会】

実施日：平成27年1月4日(日)

会場：横手市交流センターY²ぷらざ

【大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」】

実施日：平成26年12月26日(金)

平成27年 1月 5日(月)～ 8日(木) 計5日間

実習先：横手市立横手南中学校

実習生：横手・湯沢市内高校(横手城南高校、横手清陵学院高校、増田高校、横手高校、湯沢高校)より19名、秋田大学(教育文化学部、理工学部)より3名 計22名

活動内容：①補習等において各教科指導の補助的活動

(3年生の「質問教室」、1・2年生の「課題チェック」への参加)

②部活動や特別活動における補助的活動

(部活動での補助的活動、職員研修への参加)

③実習授業

(1人40分の実習授業)

④地域の方との懇談会

(不登校や引きこもりを考える懇談会、保護者や企業経営者との懇談会)



地域との交流

1. よこてイーストY²(わいわい)プロジェクト事業「エコライフフェスタ26」

(主催：横手駅前商店街振興組合 協力：横手清陵学院中学校・高等学校、増田高等学校、まなびの総合エリア、あきた・まなVIVA!創造塾、秋田県地球温暖化防止活動推進センター、一般社団法人秋田地球環境会議、一般社団法人平鹿建設業協会、秋田大学横手分校)

実施日：平成26年8月2日(土)、3日(日)

会場：よこてイーストにぎわいひろば、横手市交流センターY²ぷらざ

参加者数：2日 のべ230名 3日 のべ241名

エコライフフェスタとは、環境に関連した様々な展示、ワークショップなど家族で楽しめる体験型イベントである。

横手分校ではこのイベントの趣旨・意義に賛同し、平成23年度より協力を行っており、今年度も横手清陵学院中学校・高等学校、増田高等学校に参加を依頼した。また、NPO法人あきた・まなVIVA!創造塾、秋田大学まなびの総合エリアプロジェクトの協力を得て、「小学生向け『楽しい科学教室』」を実施した。



2. 秋田大学オフィシャルいぶりがっこ「いぶりばでい」づくり

平成21年度より3年間実施された「秋田大学オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクト」から誕生した、本学オリジナルのいぶりがっこ「いぶりばでい」を引き継ぐため、今年度も有志の学生を募って活動を行った。

今年度は参加学生でワークショップを実施し、今後の活動についてアイデアを出し合った。製品完成後にはこの活動を広く周知するため、まずは学生や教職員に向けて学内で試食販売会を行った。また、ラジオへの出演やスーパーの店頭でのPR活動など積極的に情報を発信した。

【今年度の活動】※ ()内は参加学生数

平成26年

8月 2日(土) 生産者の方へご挨拶 (5名)

8月30日(土) 大根の種まき作業 (9名)

11月 8日(土)

～ 9日(日) 大根収穫・漬け込み作業 (6名)

11月25日(火) 販売戦略打ち合わせ (6名)

平成27年

1月10日(土) 樽開け・製品化作業 (7名)

～11日(日)

1月26日(月) 学内販売打ち合わせ (6名)

2月 1日(日) ラベル・しおり貼り作業 (8名)

2月13日(金) 学内試食販売会 (6名)

2月23日(月) ABS ラジオへ出演 (3名)

3月 1日(日) スーパーでの販売開始・店頭で来客者に向け製品PR (7名)



3. スポーツ YUKIYOSE 世界大会 2015 in よこて

(主催：スポーツ YUKIYOSE 世界大会 2015 in よこて実行委員会 後援：観光庁、秋田県、秋田県教育委員会、横手市教育委員会、各報道機関等 協力：横手市雄物川地域局、秋田大学横手分校)

実施日：平成27年2月22日(日)
会場：雄物川中央公園
参加者：秋田大学ハンドボール部5名
運営ボランティア1名



雪寄せをスポーツとして捉え、地域の活性化に繋げることを目的とした事業。横手分校はこの趣旨に賛同し、大会へ出場するとともに、当日の運営に協力することで大会の成功に貢献した。

COC 事業との連携

平成26年度「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)『聞き書きボランティア』」

「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)※」の一環として、横手市において高校生を対象とした「聞き書きボランティア」を実施した。「聞き書き」とは、高齢者の話を聞いて記録し後世に残すことを言い、高齢者から庶民の歴史など様々な事柄を学ぶとともに、話すことで生きがいを持ってもらうことを目的としている。

横手分校では昨年度から横手城南高校、平成高校にご協力いただき、聞き書きから、その内容をまとめた冊子を作成するまでの知識、手法を高校生の世代から習得してもらうためのモデルケースとして取り組んでいる。

※「地(知)の拠点整備事業(COC 事業)」とは…平成25年度の文部科学省の新規重点補助事業で、大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援することで、地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を目指すことを目的としている。

【聞き書きボランティア養成講座 in 横手】

実施日：平成26年5月25日(日)

場所：サンサン横手

講師：秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座 教授 中村 順子

受講者数：27名

【今年度の活動】※ () 内の数字は、平成25年度からの累計実施回数を表す。

- 9月 4日(木) 平成高校生への事前説明会
- 7日(日) 平成高校聞き書きボランティア(3回目)
- 9月18日(木) 横手城南高校生への事前説明会
聞き書きボランティア(2回目)
- 10月19日(日) 平成高校の冊子贈呈式
- 21日(火) 横手城南高校の冊子贈呈式



分校長への講師依頼

1. 横手城南高等学校同窓会での講演

実施日：平成26年5月11日(日)
会 場：横手セントラルホテル
対 象：横手城南高等学校卒業生、関係者
演 題：「先に生まれた人はみな先生」

2. 秋田県横手市倫理法人会主催「モーニングセミナー」での講演

実施日：平成26年6月5日(木)
会 場：横手プラザホテル
対 象：法人会会員
演 題：「教育の原点と本県学校教育の様子」

3. 平成26年度全国公立学校教頭会研究大会秋田大会 「シンポジウム」でのシンポジスト

実施日：平成26年7月30日(水)
会 場：秋田県立武道館
対 象：全国の公立小・中学校の副校長・教頭の代表
テーマ：「絆を大切に 生涯にわたって自立・協働・創造していく子どもの育成」

4. 国民文化祭・食文化フォーラム「秋田県日本料理コンクール」での審査員

実施日：平成26年10月18日(土)
会 場：秋田ふるさと村 ドーム劇場

5. 平成26年度高大接続教育フォーラム 第2部グループセッションでの企画協力

実施日：平成26年10月24日(金)
会 場：秋田大学教育文化学部3号館146教室
対 象：大学関係者、高等学校教育関係者、その他高大接続教育に興味・関心のある方

6. 「秋研九日会」での講演

実施日：平成26年10月27日(月)
会 場：よこてシャイニーパレス
対 象：秋研九日会会員
演 題：「秋田県学校教育の◎○×」

7. 平成26年度秋田県高等学校教育研究会 数学部会研究(大曲仙北)大会での講演

実施日：平成26年10月30日(木)

会場：大曲高等学校

対象：高等学校教育関係者

演題：「小中高を貫く教材理解を深めよう」

8. 秋田県立大学教職科目「教職実践演習」での特別講師

実施日：平成26年11月7日(金)

会場：秋田県立大学秋田キャンパス

対象：「教職実践演習」を受講している大学生

演題：「教師の役割と職務内容について」

9. 創和建设株式会社、安全衛生協力会共催「事業研修会」での講演

実施日：平成26年12月5日(金)

会場：よこてシャイニーパレス

対象：関係職員

演題：「教育と経営の接点ーリーダーを育てようー」

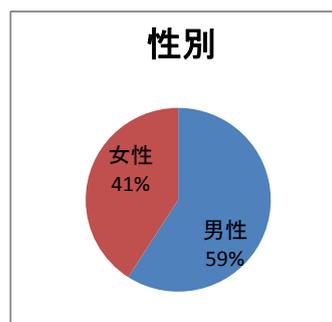
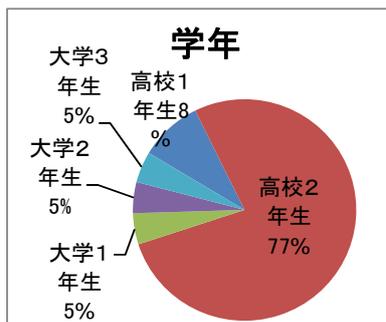
アンケート実施内容

平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」 参加者アンケート集計結果

参加者数	22 名	回収数	22 名	回収率	100.0 %
------	------	-----	------	-----	---------

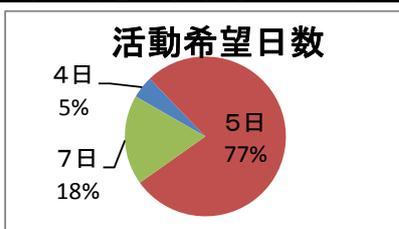
実習先	横手市立横手南中学校
実習期間	平成26年12月26日(金) 平成27年 1月 5日(月)～ 8日(木) 計5日間

回答者	男性	女性
高校1年生	0	2
高校2年生	11	6
大学1年生	1	0
大学2年生	0	1
大学3年生	1	0
合計	13	9



1 活動する日数は何日くらいがよいと思われましたか。(自由回答)

	回答数
4日	1
5日	17
7日	4

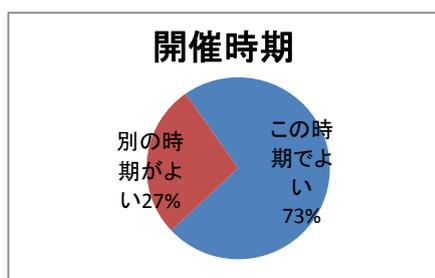


2 開催時期はどうでしたか。

	回答数
この時期でよい	16
別の時期がよい	6

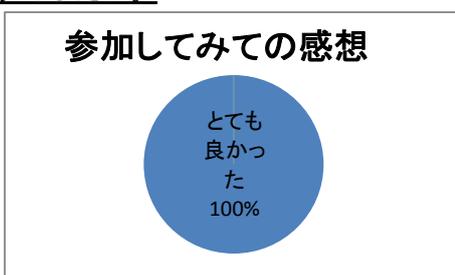
↓具体的に…

- ・夏休みなど、雪の降らない時期(他3名)
- ・年末年始と年をまたぐよりは
どちらかに集中してもらった方がよいと思う
- ・春でもよいと思いました
- ・通学に支障が出ない季節など



3 「教育ミニミニ実習」に参加してどうでしたか。

	回答数
とても良かった	22
良かった	0
ふつう	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0



4 「今回の活動内容で良かった点、改善して欲しい点がありましたらお書き下さい。」

(原文まま)

良かった点

3年生だけでなく、1・2年生とふれ合うことで学年による生徒の違いを実感できたこと。 懇談によってただ勉強を教えるだけでなく人間性を育てることの大切さを学べたこと。
自分で考えて工夫したり制作することで教師という職の大変さややりがいとその身で実感できること。
教壇に立って生徒に物事を伝える難しさを知れたし、多くの貴重な体験をすることができたからです。
生徒との交流の場が多く、多くの学生とふれあえた点。 教育実習生同士仲良くなれた点。
様々な方々の講話、懇談会。
全学年の人と関わりを持てた点。 普段聞けないような話が懇談会という形で聞けた点。
細かいところまで説明して下さった点。
実習授業をするクラスに前日行って、少しでも生徒と接することができたこと。 つながりリングの方の話を聞いて、自分だけでは気づけなかった気持ちについて知ることができたこと。
同じ科目ごとに座ったこと。 懇談会を通じて様々な意見を聞けたこと。 授業をできたこと。
担当してくれた先生の対応や助言がとても丁寧で良かった。 懇談や講話などがあって良かった。 事前練習会
全て自分にとってプラスになる活動だったのでよかった。また、3年生の質問教室3日間、2年生の課題チェック、授業と段階を踏んで日々成長したと思えることができた。教育実習を楽しみにしていたので、予想よりさらに充実した5日間を過ごせたことに感謝したい。
全ての学年の生徒と交流することができて良かった。
先生方が丁寧に指導して下さった点。
様々な方(ニートだった方、カウンセラーの方、保護者の方、企業の方)との交流する機会があった点。 高校生だけでなく大学生の方も参加して頂いた点。
実習授業ができるということ(事前練習会も含む) 懇談会への参加
自分の将来をより明確にし、向き合う時間ができた。 生徒や保護者と接する難しさを感じることができた。 学校と学校を取り巻く問題をいつもと違う視点から考えることができた。
通常の教育実習と違って高校生とも接することができたり、懇談の場を設けていただいたこと。 横手南中の先生方や根岸先生、石成さんからの手厚いサポートをしていただいたこと。 通常の教育実習ではできないトリッキーな授業ができること。
時間通りに動けたこと。
いろいろな人との懇談会があり、今後のためになるので続けてほしい。
実際に授業を行えた点。
授業補助以外の懇談はとてもためになって、深いことを考えることができた良い機会だった。
懇談や講義があり、様々な人の意見に触れられたこと。

改善してほしい点

間を空けずに5日間やってほしい。
部活動の予定が事前にわかれば大きな荷物を持つべきかどうかが早くわかった。
3年生に授業がしたかった。(その場合は開催時期は夏) 授業回数を2回にしてほしい。 授業するクラスとの接点を増やしてほしい。 他の実習生の授業も見たい。
質問教室で使うプリント以外の補足プリントをやる場合は、予習をしたいので事前にもらえると もっと詳しく教えられたと思う。
40分授業は少し短く感じた。
2でも書きましたが、時期。
細かな部分の事前通達が必要だった。 懇談会Ⅱで保護者や企業関係者の方からも言われたが、懇談の時間が短い上にテーマが多い。
プログラム上難しいかもしれませんが…もう少し授業クラスとのかかわりが欲しかったです。
もっと授業を担当するクラスと関わる場を設けてほしい
実習授業の40分は短いと思った。(50～60分でもいいと思う)
先生がわからないので担当の先生だけでも写真がほしい。

平成26年度横手分校活動状況一覧

月	日	活動内容	会場	対象者 参加者	参加 人数	担当教員・担当部局	主催、担当機関等
1月	4日(日)	平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」 実習授業の事前練習会	横手市交流セ ンターY ² ぶらざ	秋田大学生 高校生	22	横手分校 分校長 根岸 均	地域創生センター 横手分校
	5日(月)～ 8日(木)	平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」 後半	横手南中学校	秋田大学生 高校生	22		地域創生センター 横手分校
	10日(土) 11日(日)	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり④ 樽開け・製品化作業	横手市山内三 又地区	秋田大学生	7		地域創生センター 横手分校
2月	1日(日)	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり⑤ ラベル貼り・しおり添付作業	横手市山内三 又地区	秋田大学生	8		地域創生センター 横手分校
	13日(金)	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり⑥ 学内試食販売会	秋田大学	秋田大学生	6		地域創生センター 横手分校
	22日(日)	スポーツYUKIYOSE世界大会2015inよこて	雄物川中央公 園	秋田大学生	6		主催: スポーツYUKIYOSE世界大会2015inよこて実行 委員会 後援: 観光庁、秋田県、秋田県教育委員会、 横手市教育委員会、各報道機関等 協力: 横手市雄物川地域局、秋田大学横手分校
	23日(月)	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり⑦ ABSラジオ「あさ探りワイド秋田便」への出演	ABSラジオ局	秋田大学生	3		地域創生センター 横手分校
3月	1日(日)	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり⑧ 県内のグランマート・タカヤナギ各店舗で販売開始 学生の店頭でのPR活動	グランマート手 形店、泉店	秋田大学生	7		地域創生センター 横手分校

秋田大学横手分校に関する掲載記事等一覧

■新聞

No.	記事掲載日	新聞名	記事
1	26.12.28	秋田魁新報	「未来の教師」実習体験 横手南中 高校生ら授業補助
2	27.1.12	秋田魁新報	秋大生手作りいぶりがっこ 横手市 味と香り今年も上々 来月中旬販売開始 手際よくパック詰め
3	27.1.15	読売新聞	秋大生が作る「いぶりばでい」今年もスーパーで販売
4	27.1.21	秋田魁新報	「子らへ寄り添う存在に」教員志望の県内高校生、大学生 不登校経験者と懇談通じ考える

■雑誌

No.	冊子名 発行月	記事
1	rakra(ラクラ) vol.69 3・4月号 p.106	大学生が「いぶりがっこ」をプロデュース その名も「いぶりばでい」3月から販売開始

■テレビ・ラジオ取材

No.	取材日	事業名	報道機関名
1	26.12.26	平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム 「教育ミニミニ実習」	ABS秋田放送、横手かまくらFM
2	27.1.8	平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム 「教育ミニミニ実習」	AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、横手かまくらFM
3	27.1.10	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり	横手かまくらFM
4	27.2.22	スポーツYUKIYOSE世界大会2015inよこて	AKT秋田テレビがハンドボール部を取材
5	27.2.23	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり	ABSラジオ「あさ探りワイド秋田便」への出演
6	通年	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり	秋田ケーブルテレビ「秋田大学生のいぶりがっこづくり～『いぶりばでい』ができるまで～」

■市報よこて

No.	発行月	事業名	記事
1	No.209 6月15日号	平成26年度COC事業 「聞き書きボランティア」	ボランティア精神をはぐくむ
2	No.214 9月1日号	間引きスイカ活用についての勉強会	産学官連携で地域資源を活用
3	No.224 2月1日号	平成26年度 大学生・高校生教職体験プログラム 「教育ミニミニ実習」	教師への夢ふくらむ
4	No.224 2月1日号	秋田大学オフィシャルいぶりがっこづくり	秋大生の手作り『いぶりがっこ』完成

秋田大学横手分校 アクセスマップ





秋田大学横手分校

〒013-0036

横手市駅前町1番21号

横手市交流センターY²ぷらざ内

TEL 0182-38-8304 FAX 0182-32-4056

E-mail yokotebunko@city.yokote.lg.jp

編集・発行 秋田大学横手分校
秋田大学地域創生センター

平成27年4月